

ゾウの足と蹄のケアー 【Feet hoof care】

http://www.upali.ch/feet_en.html

どのようにして、ゾウは歩いているか？

ゾウは、指先、そして、つま先で歩いている。ゾウは、いわゆる**指行性動物**である。そしてまた、有蹄類と奇数指の動物に含まれる（例えば、ウマ、ヒツジ、ラクダ、サイ）。

ゾウは、つま先の先端の背後（足の内部）に、比較的軟らかいクッションを有する。もし、あなたの足をゾウに踏まれた場合、ゾウの爪（つま先）で踏まれなければ（すなわち、足裏の中央や後部で踏まれれば）、この軟らかいクッションのおかげで、あなたは、それほど痛くないだろう。

ゾウの足裏は、でこぼこである。そのでこぼこは、雪や氷の滑らかな表面で滑ることを防止したり、接地力（トラクション）を強める。



↑ アンドレアス・ベンツ（Andreas Benz）博士提供

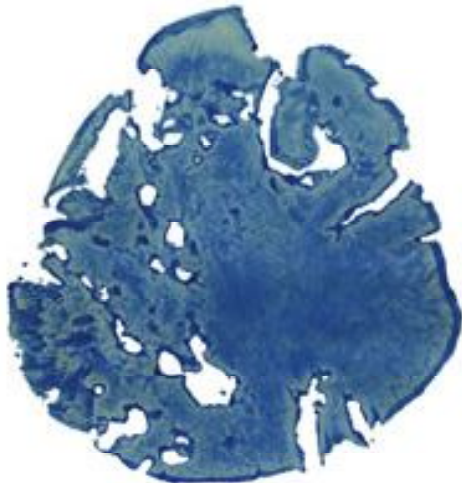
ゾウの足は、どれくらい大きいか？

この写真の青い足型（左下写真）は、アジアゾウ（メス：Chhukha）の足に青い塗料を塗って、紙を踏ませて作った。

圧倒的な重量を持つゾウの足跡は、感動的である。

アジアゾウ（メス：Chhukha）が残した前肢の足跡は、幅と長さが 40cm、周囲の長さ 1.34m であった。

チューリッヒ動物園のオスゾウ（Maxie）が残した前肢の足跡（右下写真）は、長さ約 47cm、幅 51cm、周囲の長さ 1.57m であった。



足と肩高（肩の一番上部の高さ）との間には、どんな関係があるか？

経験あるゾウのハンターは、ゾウの足跡を物差しにして、そのゾウの体高と、おおよその年齢が解ると言う。足の周囲長の2倍は、ゾウの肩高（肩の上部の高さ＝キ甲の高さ）に相当する。

そういうわけで、Chhukha（メスゾウ）の肩高は、足の周囲長 $1.34\text{m} \times 2 = 2.68\text{m}$ に相当するように 2.75m であった。

しかし、アジアゾウで最も高い部位は、アフリカゾウとは対照的に、肩の上ではなく背中である。そして、Chhukha の背中の高さは 3m に達する。したがって、オスのアジアゾウ（Maxie）の肩高は、 3.15m と計算され（足の周囲長 $1.57\text{m} \times 2 = 3.14\text{m}$ ）、背中の一番高い部分は、 3.3m に達すると推察できる（他章で述べたように、Maxie は、直接飼育ではないので、足跡からの推測値）。

ゾウの足の爪は、切らなければならないか？

動物園とサーカスのゾウは、運動量が少ない。そして、自然界を歩き回り、足の裏と爪が激しく摩耗する真の野生のゾウと比較すると、摩耗度は少ない。

まさしく、人間と同じように、ゾウの足の裏と爪は、絶え間なく伸びるので、時々、人間が切ってやらなければならない。

サーカスのゾウたちは、主に、鋸屑（おがくず）の上や、サーカスの舞台上を動くので、動物園のゾウたちよりも足が摩耗しない。したがって、より強力（集中的）な足のケアが必要である。



どのようにして、足の爪を切るか？

牛馬用の蹄ナイフ、目の細かいヤスリ、おろし金のようなヤスリを使って健康的で自然な形態にしなければならない。



どのようにして、オスゾウの足の爪を切るか？

足に関する問題は、主としてオスゾウに生じる可能性がある。

下手な（まずい）訓練をされたり、何をしでかすか解らないオスゾウと、同様のケースのメスゾウに対する適切な足のケアは難しい。

ゾウの調教師が、オスゾウやメスゾウの足のケアを直接的にできない場合、全身麻酔薬を、そのゾウに投与しなければならない。

全身麻酔薬は、ハリコフ動物園（ウクライナ）のオスゾウ（Assam）に必要だった。このゾウの爪は長年にわたり放置（怠慢）されたために非常に長くなっていた（上写真）。そして、ドイツのゾウ調教師と獣医師のチームによって、全身麻酔下で、正常な長さに切りつめてヤスリがけされた。



「間接飼育あるいは防護下飼育（protected contact）」のゾウでは、どのようにして、足を処置するか？

写真のように、飼育係を防護する柵の穴から足を差し出すほど、チューリッヒ動物園のオスゾウ（Maxie）は、とてもよく訓練されている。このように、ゾウの調教師は、比較的危険を伴わずに、ゾウの爪や足の裏を切ることができる。

普通は、オスゾウの足を切っている調教師から、オスゾウの気を散らすために、もう 1 人の調教師がリンゴを与える。

理想的には、さらに、3 人目の調教師が、オスゾウと全ての状況を見張る（警戒する）。

毎日実施する規則的な足のケアの一部は、足裏と爪に埋まり込んだ小石を取り除くことである。

毎日の足のケアと、ゾウとの直接的な接触は、ゾウの調教師とゾウたちとの間に、極めて重要な信頼関係を築くために役立つ。こういった理由で、足のケアは、1 日の作業過程に組み込むべきである。



下記の論文は、ゾウの飼育係と専門的獣医師が興味を持つかもしれない。獣医師のアン

ドレアス・ベッツ博士（チューリッヒ大学獣医学部、獣医解剖学研究所）は、題名「ゾウの蹄：病理学的変化の考察のもとで定義された位置の肉眼的、顕微鏡学的な形態」という博士論文を書いた。要旨は、http://www.upali.ch/dis_en.html で見ることができる。ゾウの足の解剖学を中心としたこの論文の総ては、<http://www.upali.ch/diss.pdf> から PDF ファイル（5MB）としてダウンロードできる。